



元気アップみのり

2020年(令和2年)
秋の号

発行 特定非営利活動法人 元気アップみのり
住所 〒678-0052 兵庫県相生市大島町 3-4
電話 0791-22-1330 Fax 0791-22-1347 <http://genkiupminoru.com>

「秋」と書いて「トキ」と読む「時」…

「芸術の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」など一般に「秋」の字は「アキ」と読みますが、「決戦の秋」と書く場合は「トキ」と読みます。「危急存亡の秋」も同じです。中国の故事に因^{ちな}んでいて、何か重大な瀬戸際の「時」は「秋」の字を用いるのだそうです。

今年の秋は、アメリカ国民や大阪市民にとって正に「決戦の秋」だったと言えます。ともに世論を二分した激しい競^せり合いに私たちまでハラハラさせられました。今また新型コロナウイルスの第3波をめぐって感染防止か、経済復興か、と非常にむずかしい選択が問われています。まさか国民投票というわけにも行かず、政府も慎重な構えを崩していません。

結局めいめい自分が最善と思う「自助」を行なうしかなく、作業所としても出来る限りの自衛策は講じるつもりです。今まさに「試練の秋」と言えます。



コロナ禍を避けて相生湾に停泊していた「ばしふいっく・びーなす号」。先日、クリスマスクルーズに向けてしずかに出航して行きました。

神戸やまぶき財団の助成金で、 軽四の納品車を新調します！

伊勢製菓の受託業務のため当作業所は軽四のバンを使い一日4〜5回工場との間を往復しています。保管スペースや道路事情もあり、どうしても小型車でのコマメな配送が必要になりました。納入先の工場は車で5〜6分の所ですが多頻度の往復は結構大変です。さらに以前は、廃品回収にも軽四を使ってました。

この激務に耐えて来たのが現在のホンダ車で平成18年製です。さすがにあちこちガタが来ていましたので買い替えることにしました。

そしてこの度もお世話になったのが神戸やまぶき財団(註参照)です。同財団には以前も送迎のワゴン車やメール便の電動自転車も助成いただいております。ただコロナのせいか納車まで2ヶ月もかかるのか。しばしお待ちを！



今度の新車はスズキ・エブリイです！

【註】神戸やまぶき財団…医療機器メーカーシスメックスや音響機器メーカーT.O.A.創業家の中谷忠子氏からの出捐金により 2012 年に設立された公益財団法人で、障害者をはじめ要保護児童、難病の小児患者及びその家族をサポートする施設・団体に対する支援を目的としている。事務所は神戸市の元町にあり、播州信用金庫の理事長でもある和田長平氏が理事長をしている。2019 年度の助成金支給実績は 212 団体 374,940 千円とのこと。(H.P.等より)

令和2年度上期、元気アップみのり 運営委員会を開催しました！

9月18日、今年度上期の運営委員会が例年通り、理事長と理事1名、職員3名、利用者2名に、相生市社会福祉課、赤穂健康福祉事務所、相談支援事業所みどりから3名の委員をお招きして、計10名の出席で開催されました。4月に社会福祉課に赴任された初参加の木下係長からごあいさつをいただき、各々の自己紹介のあと作業所長から報告があり、前期については、近年にない好決算になったこと、利用者工賃も平均月収と時間当りの金額の両方で、兵庫県の平均値をはじめ越えたこと、等が語られました。今期についてはコロナ禍でパン販売を自粛するなど苦しいスタートとなり、6月の総会では減収・減益を覚悟して緊縮予算を組んだところ、持続化給付金のおかげで名目上は想定外の黒字になっていること、しかし夏以降は退所者が続いたり受託事業の受注が減少するなど、コロナの間接的影響と思われる現象が出ている、などが話されました。

相生市からは、秋の恒例行事は中止しても例年各施設に作ってもらっているクッキー等は、今年も購入して関係先に配りたい、との話があった他、コロナ禍での赤穂保健所の対応についての話や、利用者から日頃の思い、などの発言がありました。

11月8日、夏苅郁子先生の講演「人は人を浴びて人になる」をオンラインで受講！

夏苅先生をご存知の方は多いと思います。先生は統合失調症のお母様と暮され、ご自身も自殺未遂を経験されたという経歴をお持ちで、専門家として、家族として、また当事者として、様々な立場からのお話には、これ迄も多くの患者や家族の方々の共感を呼んで来ました。一昨年には患者と家族6,200人を対象に全国調査をされ、【註】その概要が新聞紙上で報道され話題になりました。今回、その夏苅先生の講演が、中・西播磨精神保健福祉連絡協議会等の主催によってオンラインで開催されたのです。自宅での受講の他、中・西播磨7会場でスクリーンを見ながらの受講も可能と知り、当作業所関係者5名が相生福祉会館で受講しました。他会場から出た質問にやさしくお答えになられた際の夏苅先生の表情がとても印象的でした。【註】<http://natsukari.jp/result/>参照



夏苅郁子先生

「施設外支援」として利用者の一人 が喫茶店で職場体験の実習に！

福祉作業所は働くことで収入を得る場であるとともに、一般就労へ向けての訓練の場でもあります。しかし就労や訓練の場としては、何も作業所内に限る必要はなく、最近は「施設外就労」や「施設外支援」を取り入れる所がふえています。このたび当作業所でも、利用者本人の希望と事業所様の暖かい理解もあって「施設外支援」に取り組むことになりました。



昨年、特別支援学校から入所したM君は10月末より山手のある喫茶店に見習いとして毎朝お店に直行しています。朝まずやることは庭掃除時折、窓磨きも。豆の紙袋に店のゴム印を押すことも。最近になってコーヒーの淹れ方を手ほどきしてもらったとか。実習なので工賃はありませんが、まだ社会経験の乏しいM君は多くの実体験を積む方が将来のためになると思います。実習時間は昼まで、午後は作業所に来てメール便配達をします。契約はひと月毎の更新で最長半年くらいを見込んでいます。

カフェのマスターになる夢を抱きながら、貴重な機会をぜひ活かしてもらいたいものです。



自家焙煎の本格珈琲のお店です

今秋のバザー出店は赤穂で2件！ 消費回復は“まだしの感が…”

コロナ影響で秋のイベントは多くが中止となりましたが、10月13~14日イオン赤穂では今年もウィズin西はりま主催の共同販売会が8事業所の参加で開かれ私たちもシフォンケーキを出品しました。しかし例年に比べ客足は鈍く、多くの売れ残りが出ました。また10月31日には赤穂の駅ビル「プラット赤穂」でもウィズin西はりまが再度6事業所で販売会を開きました。折から「鬼滅の刃」を放映中の赤穂シネマから客が流れてくるのを待ったのですが期待外れに…



閑散としたプラット赤穂の販売会場

後編 記集

我慢の3連休の後、
平年並みの寒さが戻って
来るそうです。皆さまくれぐれも
ご用心ください！